

上海レポート

令和3年4月号
Vol. 8



公益財団法人 大阪産業局 上海代表処 (大阪府上海事務所)
中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20210406号	上海コーヒー文化ウィークが始まりました	副所長 大山知宏
20210412号	上海での地域貢献を通じた企業プロモーション	副所長 前田千晶
20210416号	TADAO ANDO『水の教会』上海再現	秘書 孫芸
20210423号	古くて新しいもの	所長 南浦秀史

上海コーヒー文化ウィークが始まりました

ここ上海では、3月29日から4月11日の日程で、「上海珈琲文化周」(上海コーヒー文化ウィーク)が開催されており、市内各地では、展示会や関連イベントが実施されています。

第一財經の研究所が発表したデータによると、2021年1月現在、上海市では6913店のカフェが営業しており、この数は世界の都市で最も多いとのこと！また、人口1万人当たりのカフェ店舗数は2.85店と、ニューヨークやロンドン、東京といった国際都市と同水準となっており、こうした数字からも、上海にコーヒー文化が着実に根付いてきていることが伺えます。

先日、コーヒー関連の展示会を覗いてきましたが、予想以上に多くの来場者が訪問しており、あちらこちらのブースで、商談が行われていました。アメリカのスターバックスコーヒーや日本のUCCなど、海外の有名企業が大きなブースを構えて存在感を示す一方、中国雲南省のこだわりのコーヒー豆を扱うブースや、テントやキャンピングカーと一緒にコーヒーを並べて、アウトドアの雰囲気 연출するブースなど、中国企業の出展ブースは「個性」で勝負しているようで、多くの若者を惹きつけていたのが印象的でした。

スペインの研究チームが発表した報告によると、運動を始める前にコーヒーを飲むと、脂肪燃焼効果が向上すること。健康ブームも後押しするかたちで、中国でのコーヒー関連産業は、まだまだ伸びていきそうな気配です。



上海での地域貢献を通じた企業プロモーション

今回は上海での外国企業の取組みについて紹介したいと思います。

今週末、上海人気のスポット「徐匯濱江(緑地)」でランニングをしてきました。徐匯濱江(緑地)は、黄浦江沿いのアウトドアスポットです。広々とした芝生、ドッグラン、ボルダリング施設、バスケットボールコート、スターバックス、美術館など沢山の施設があり、その一角に adidas の運営するランニングステーション「runbase」があります。

そこは、利用料無料で、adidas の靴も無料で借りてランニングすることができました。更にはランニング関連のイベントにも無料で参加できるとのこと。日本でも同様のランニングスペースは存在しますが、上記のような活動は全て有料だったので、たいへん驚きました。

なぜ無料でこんな活動ができるのかと店舗スタッフに聞いてみると、社会サービスの一環として、徐匯濱江の管理部門と共同で運営しているからとのことでした。時期によって変動するものの、直近 1 ヶ月あたりでは 12,000 人から 13,000 人が訪れるそうで、プロモーション効果は絶大です。地域と共同運営であるため商品の販売はできないとのことでしたが、企業のプロモーションもでき、地域の発展に繋がる点で企業側と政府側双方にメリットがあり、面白い取り組みだと思いました。今後も上海の面白い発見を発信していきます。



TADA0 ANDO『水の教会』上海再現

世界的に有名な建築家・安藤忠雄氏(大阪出身)。建築ファンはもちろん、そうでない人も、一度はその名前を耳にしたことがあるでしょう。

その安藤忠雄氏の大規模な展覧会がこの 3 月 19 日から、中国上海市の復星芸術センターで開催されています。中国で開かれる個展としても過去最大規模のもので、会期は 6 月 6 日まで。今回の目玉は代表作『水の教会』の原寸大再現です。水の教会は北海道の星野リゾートトマム内にあるチャペルで、安藤忠雄氏が手がけた「風・光・水」の教会三部作のひとつでもあります。開催初日のビデオ挨拶で、安藤氏は「展覧会には模型や写真などたくさんあります。しかし建築そのものとしての理解は実空間でない限り、体験はできません。再現された建築は感覚に最も大きなインパクトを与え、観客はそれを感じることができます」と述べました。

上海には安藤忠雄氏が設計した美術館や劇場、文化センターなどの建築が数多くあります。最も有名な保利大劇院—Poly Theatre は、上海郊外の嘉定区にあるニュータウン(嘉定新城)のシンボルとなりました。上海国際デザインセンターは、中国で安藤忠雄氏が手掛けた初のプロジェクトです。最後に紹介するのは、私が一番好きな上海建築文化センター。この建物は 2 つの直方体が並び、その間から農村の美しい景色や現地に流れる 1 本の小川が切り取られるように配置されていて、建物と周囲の景色が一体となります。中国でもかなり先進的なデザインと感じられています。

これらの作品は今回の個展でも紹介されています。これからも上海でコンクリート、光と影、そして自然とも共生する建築を数多く設計してほしいです。



古くて新しいもの

トrolleyバスをご存じでしょうか。バスから線が伸びて電線に繋がっている、大阪で言う「ちんちん電車」のようなバスです。実は上海のトrolleyバスは世界中で最も古いものと言われており、創業は1914年、既に100年以上経過しています。道路上に架線を張り巡らせる必要があるため、日本ではモータリゼーションの到来とともに街中から姿を消しました。

しかし、ここ上海では多くの路線で現役運行されています。電線から電気を供給して動力にしますので、大容量の蓄電池の開発などにより、最新式のもの、いわゆるEVバスとして甦っています。

また、上海の中心部を東西に走る71号線は、BRT(バスラピッドトランジット=バス高速輸送システム)の導入により、平日の平均乗客数は約54,000人と最も乗客の多いバス路線となっているそうです。

